

平成 31 年度

被災世帯等に対するパーソナルサポート事業

実績報告書

公益財団法人 共生地域創造財団

目 次

1. はじめに-----	1
2. 活動目標値に対する実績-----	2
2-1. 活動訪問-----	2
2-2. 生活再建相談支援-----	3
2-3. 交流機会創出活動-----	3
2-4. ケースカンファレンス-----	5
2-5. データベース化（支援活動履歴の記録）-----	6
2-6. 他支援機関・協働-----	7
2-7. 事例検討勉強会-----	10
2-8. 研修実績-----	11
3. その他の事業成果-----	12
3-1. 緊急一時支援の実績-----	12
(a) 食糧支援実績-----	12
4. 統括および次年度への展望-----	13

添付資料 別紙：非公開資料

1. はじめに

当財団は、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災を機に被災者支援の活動を開始しました。平成 24 年度より開始した「大船渡みらいサポート事業」では、「在宅被災世帯」を対象に実態把握と見守り支援を 2 年間にわたり実施しました。現在までに 683 世帯の調査、把握がなされています。平成 26 年度より開始した「被災世帯等へのパーソナルサポート事業」においては、前身事業の活動を引き継ぎ、在宅被災世帯を主な対象とした見守り支援からスタートしています。しかし、被災地の状況は当初事業から大きく変化しており、それまでの見守り型の支援から課題解決型の支援、単独型から地域連携型の支援への対応が求められ、地域にある「人」や「制度」などの資源を活用して生活再建を目指す支援を行いました。住民自身の力や地域力を連関させる、復興に向けた重要な取り組みであったと言えます。

平成 26 年度末から当事業が参画した「大船渡市応急仮設住宅支援協議会」では、仮設住宅からの生活再建の目処が立たず、将来の見通しを立てることが困難な世帯に対し、課題解決型の支援を行う役割を担いました。その後、仮設住宅団地の撤去・集約の進捗に合わせながら、協議会内での連携・協働体制の構築を図り、多機関連携による支援体制づくりを進めました。

これらの支援体制をもとに孤立や生活困窮が窺われる世帯への伴走を実施する一方、訪問活動を通じて制度の案内や手続きサポート、経過確認を進めることで仮設住宅からの円滑な転居へと結びつけることができました。平成 30 年度には災害公営住宅への全戸訪問を実施し今後の災害公営住宅におけるアウトリーチ活動の土台を作りました。

平成 31 年度は、上記活動の継続とともに財団の関わる在宅被災者世帯全 683 世帯のうち終結等の 65 世帯を除く 618 世帯の再調査を実施。震災後 9 年目を迎えるなかで地域福祉課より依頼された健康調査（鬱スクリーニング）と合わせ在宅被災者のその後の様子について全戸訪問にて確認しました。

当財団の活動は一貫して、支援が届きにくく、自ら助けを求めることが難しい状況に置かれている人への支援を目的として来ました。被災住民が、生活再建後も安心して生活して行くことができる地域を創造することが、当財団の使命であると考えます。今後も、大船渡市の復興に寄与できるよう、更に支援の質の向上に努めて参ります。皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2. 活動目標値に対する実績

2-1. 訪問活動

被災世帯を主な対象とし、継続支援および新規調査のための戸別訪問活動、災害公営住宅に転居後の孤立対応訪問、在宅被災者の家族課題への訪問相談等のための訪問活動を行った。

(単位:件)

	2019年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
継続訪問	32	44	87	78	60	72	76	95	90	71	72	94	871
新規調査	0	1	2	2	6	6	1	4	0	2	0	0	24
訪問合計	32	45	89	80	66	78	77	99	90	73	72	94	895

目標値

件数	月	目標件数
100	12	1,200件

目標値：100件/月×12ヶ月＝1,200件

達成率

訪問総計	目標件数	達成率
895	1200	74.58%

達成率：895/1,200＝74.5%

在宅被災世帯再調査実績

	地区名	再調査済み	不在	その他	計
1	大船渡町	104	55	26	185
2	赤崎町	53	42	13	108
3	三陸町	52	22	17	91
4	猪川・立根町	5	2	7	14
5	盛町	61	43	10	114
6	末崎町	69	27	10	106
	総計	344	191	83	618

注記)

不在：数回訪問しても確認できなかった世帯の他に施設入所や病院入院
および対象者死亡等の件数

その他：転居先不明や居住実態が把握できなかった世帯。

2-2. 生活再建相談支援

今年度は在宅被災者と災害公営住宅へ転居後の被災者に対する生活困窮、高齢者福祉等の生活相談が中心であり、必要に応じた他機関へのつなぎ等を行った。

(単位:件)

	2019年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
件数	2	3	3	4	2	2	4	7	4	5	2	2	40

目標値

件数	月	目標件数
20	12	240件

目標値：20件／月×12ヶ月＝240件

達成率

相談件数	目標件数	達成率
40	240	16.67%

達成率：40／240＝16.6%

2-3. 交流機会創出活動

今年度はサロン活動以外にも地域が抱えている課題を把握するために地域住民や各団体等のヒアリングや相談にも重点をおいて活動を実施し、地域における孤立の解消や世代間交流の活性化に取り組んだ。

また、孤立傾向にあつてサロンへの参加が困難な世帯については、昨年度と同様に訪問支援の中で手芸などの趣味や余暇の活動につながる題材の提供を行うことでサロンに向けた働きかけを行い、孤立の解消に向けた取り組みを図るなど、新たな可能性を見出す活動を継続的に行った。

月日	名称・内容	主催・協力機関	参加者
4月	ちっちゃいサロン 参加が安定してきたメンバーの要望と今後少しずつサロンの輪を広げていく目的で新規参加者を募って開催	ちっちゃいサロン 共生地域創造財団	5
5月	手芸サロン 手芸の好きな人たちのサロン	大船渡市防災観光交流センター	3

8月	共生サロン 紙芝居、軽体操、お茶っこ会 お茶っこ会は菓子店に出向き自分が 食べたいお菓子を購入して、陶芸教 室の作品披露会を行った	おはなしころりん 深大寺陶芸教室 大船渡市防災観光交流センター	4
9月	12月22日に開催するクリスマスイベ ントに参加を決定。実施内容の第1 回打ち合わせ	キャッセン大船渡	2
10月	12月22日に開催するクリスマスイベ ントに参加を決定。実施内容の第2 回打ち合わせ	キャッセン大船渡	2
11月	共生サロン クリスマスイベント用のディスプレ イ作成	末崎町（余暇支援）	1
12月	共生サロン クリスマスイベント用のオーナメン ト作成	おおふなポート	4
	キャッセンウィンターワンダーラン ド打ち合わせ 当日スケジュールとブース確認	キャッセン大船渡	4
	キャッセンウィンターワンダーラン ドに参加 「おばあちゃんと一緒にソックスス ノーマン」世代間交流サロン開催	キャッセン大船渡	3
1月	趣味サロン 手芸好きの高齢独居のお宅で手芸サ ロン	余暇支援	1
	新年会サロン クリスマスイベントに協力していた だいた感謝と親睦を深めた	大船渡プラザホテル	5
	趣味サロン 手芸好きの高齢独居のお宅で手芸サ ロン	余暇支援	1
2月	趣味サロン 手芸好きの高齢独居のお宅で手芸サ ロン	余暇支援	4
	共生サロン 「お出かけサロン」世界の椿館、吊 るし雛の鑑賞と昼食会	世界の椿館 末崎町	3
3月	共生サロン 「お出かけサロン」世界の椿館、吊 るし雛の鑑賞と昼食会	世界の椿館 末崎町	2
合 計			47

目標値

件数	月	目標件数
4	12	48件

目標値：4件／月×12ヶ月＝48件

達成率

サロン	目標件数	達成率
47	48	97.92%

達成率：47／48＝97.9%

2-4. ケースカンファレンス

支援対象世帯情報の共有と、支援プラン・リプラン検討(ケースカンファレンス)、その他情報共有のためのスタッフ全体ミーティングを行い、支援に必要な討議・検討を行った。

(他機関と共同で開催した支援担当者会議やモニタリング(経過確認)等は含まれていない。)

プラン・リプラン検討			全体MTG		
月	日付	実施回数	月	日付	実施回数
4月	10日、17日、24日	3	4月	5日、12日、19日、26日	4
5月	8日、15日、29日	3	5月	10日、17日、24日、31日	4
6月	12日、19日	2	6月	7日、14日、28日	3
7月	3日、17日、24日	3	7月	12日、19日、26日	3
8月	2日	1	8月	2日、9日、23日、30日	4
9月	11日	1	9月	6日、13日、20日、27日	4
10月	16日	1	10月	4日、11日、18日、25日	4
11月	-	0	11月	1日、15日、22日、29日	4
12月	10日	1	12月	6日、20日、27日	3
1月	14日	1	1月	10日、17日、24日、31日	4
2月	-	0	2月	7日、14日、21日、28日	4
3月	18日	1	3月	6日、13日、19日、27日	4
合計		17	合計		45

目標値

件数	月	目標件数
4	12	48件

目標値：4回／月×12ヶ月＝48回

達成率

実施件数	目標件数	達成率
62	48	129.17%

達成率：62／48＝129.1%

2-5. データベース化（支援活動履歴の記録）

訪問活動および他機関へのつなぎ等の支援活動を行い、その記録をデータベース化した。

戸別支援活動実績集計表

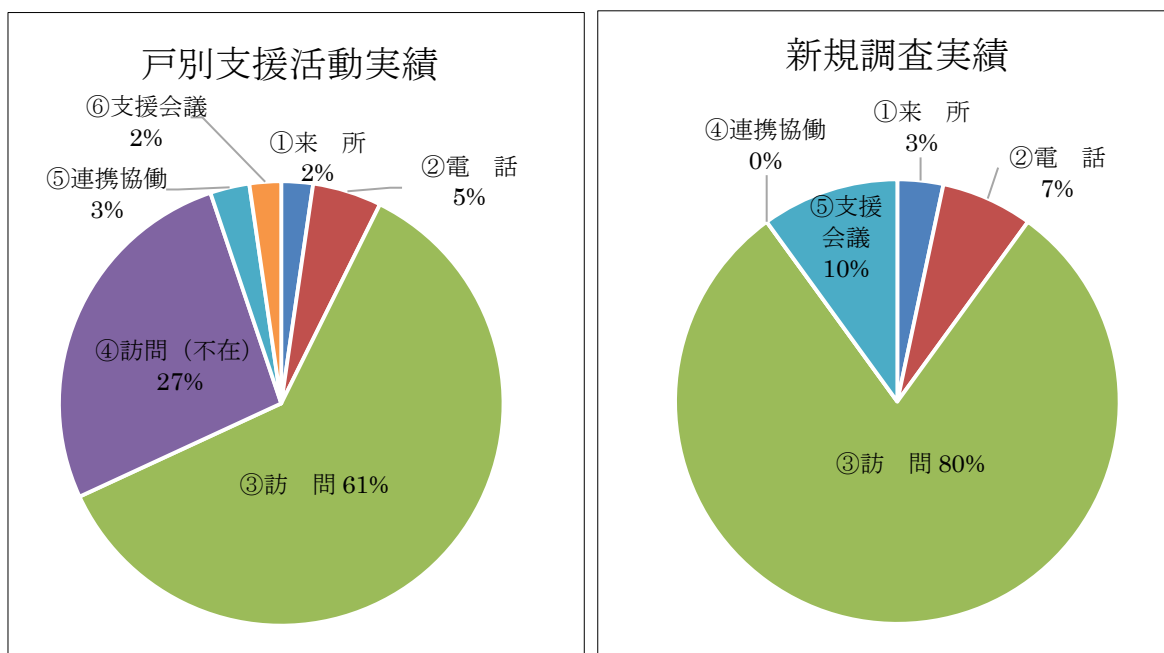
(単位:件)

項目	2019年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①来所	0	3	4	4	2	1	4	6	4	4	1	0	33
②電話	14	7	3	5	9	3	6	3	2	7	8	5	72
③訪問	32	44	87	78	60	72	76	95	90	71	72	94	871
④訪問(不在)	11	19	61	41	23	23	35	36	42	25	36	31	383
⑤連携協働	4	5	2	6	3	4	1	5	0	2	7	2	41
⑥支援会議	11	2	4	6	4	1	1	0	2	0	1	1	33
件数	72	80	161	140	101	104	123	145	140	109	125	133	1,433

新規調査実績集計表

(単位:件)

項目	2019年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①来所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
②電話	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
③訪問	0	1	2	2	6	6	1	4	0	2	0	0	24
④連携協働	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤支援会議	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
件数	0	3	2	2	6	6	2	5	0	2	2	0	30



2-6. 他機関連携・協働

支援担当者会議等の実施状況を含みます。

月日	調査ID	機関名	専門分野	連携・協働概要
4月	766	大船渡市 社会福祉協議会	困窮者自立支援	生活資金ショートの実況における役割分担の確認。
		公営団地自治会	N/A	(出来る範囲での) 情報共有と見守りの確認
	505	大船渡市 社会福祉協議会	相談支援員	『陽だまり』と新年度訪問スケジュール確認
	188	大船渡市 社会福祉協議会 (ケアマネージャー)	介護福祉	認知機能の低下により福祉サービス利用の回数増、あんしんネットの利用について家族と話し合ったこと等の情報共有。共生も定期的な状況確認訪問を行うことにした。
5月	712	大船渡市 社会福祉協議会	社会福祉	家賃を滞納し連絡もつかない状況なので母親が入所している施設へ家賃滞納の連絡と家賃納付書を送ったと社協より連絡があった。同時期に本人から消費者金融から一括返済の請求と知人が金銭トラブルを起こした、自分は家賃を滞納しているとの相談あり。家賃滞納については母親のもとに納付書が届いているので取りに行くよう伝えた。施設からは取りに来たとの連絡あり。

6月	712	大船渡土木センター	県営住宅管理	家賃の支払いや今年度の家賃申請手続き有無を土木センター担当に確認したところ家賃は未納、申請もしていない。本人との連絡も取れないとのことだった。
7月	797	地域福祉課 保健師	相談支援	保健師から統合失調症であるとの確認と情報共有
	823	大船渡市税務課	手続き支援	県営住宅家賃算出のため代理人での所得課税証明書受領確認
	505	気仙居宅 介護支援事業所	情報提供	薬が亡くなっている事の報告
	749	大船渡市地域福祉課 生活保護担当	情報共有	本人より部屋の片づけを手伝って欲しいと要望があり7月19日に部屋の掃除に行くことを報告
	327	地域包括支援 センター	情報共有	身内の60代独居男性の手術後の介護相談を受けたことを共有
	630	地域包括支援 センター	情報共有	父親の死亡を報告し現在の息子の状況を共有
	766	大船渡市 社会福祉協議会	情報共有	金銭的に不安定な生活を送っているためそれぞれ得た情報を共有しながら適宜支援。
8月	766	大船渡市 社会福祉協議会	情報共有・検討	エアコン修理代金等の確認を行い社協と情報共有し今後の対処を話し合った
	909	ユニバーサル就労 センター	つなぎ	星雲を通して就労センターにつないだ。本人は椿葉洗浄のグループワークを見学し参加を希望した。
	131	地域包括支援 センター	情報共有・検討	財団の訪問有無確認と情報共有と今後の訪問方法について検討した
9月	505	気仙居宅介護事業所 (ケアマネー ジャー)	情報共有・依頼	処方薬有無と服用を訪問時に確認してほしいとの依頼
			情報提供・共有	処方薬有無と服用を訪問時に確認しケアマネージャーに報告
	188	大船渡市 社会福祉協議会	相談・検討	今後の訪問支援の方向性について検討し、双方が安否確認するにはヘルパー利用時間を避けて訪問することにした
	420	介護センターこころ (ケアマネー ジャー)	情報提供・共有	訪問時熱中症の疑いがあったため隣人を通して家族に連絡して救急搬送されたことの情報を提供した。ケアマネージャーから介護保険の情報を得た
766	大船渡市 社会福祉協議会	情報共有・食糧支援要請	食糧がなくなると連絡が入ったことと中傷する貼り紙が玄関前通路の塀に貼ってあったという報告あり	

10月	188	大船渡市 社会福祉協議会 (ケアマネージャー)	情報共有	担当CMに状況を確認し、本人の状況に注意しながら見守り訪問を継続することにした
	766	大船渡市 社会福祉協議会	検討	社協担当者と状況確認訪問、今後の支援について話し合った。
	766	大船渡市 社会福祉協議会	情報提供・共有	食糧支援要請と耳から出血し病院にて受診したと連絡あり
11月	797	地域福祉課 (担当保健師)	精神 生活困窮	情報の相互確認
	131	地域包括支援 センター	介護関連	支援方針の確認
	505	ほほえみ 担当ヘルパー	介護関連	支援内容確認
12月	766	大船渡市 社会福祉協議会	生活困窮	支援方針の検討会
1月	797	大船渡市地域福祉課	生活困窮	状況確認・情報共有
	766	大船渡市 社会福祉協議会	生活困窮	状況確認・情報共有
2月	61	社会福祉協議会 (陽だまり)	情報共有	訪問状況確認
	759	地域包括支援 センター	相談・情報共有	手足の痺れが原因で生活に支障をきたす状態であったため相談共有した
3月	759	地域包括支援 センター	高齢者福祉	情報共有と連携支援
	690	大船渡市 長寿社会課	高齢者福祉	緊急通報装置設置に関して
	50	こころデイサービス	高齢者福祉	状況確認と情報共有

2-7. 事例検討・勉強会

関係領域でパーソナルサポートを行っている他機関より講師を招き、当事業内での支援ケースについて検討、意見交換を行うことで、支援内容の向上を図っている

月 日	研修内容	講 師
4月24日(水)	障害年金、自互共公助、発達障害についての研修発表	スタッフ3名、熊谷SV
4月25日(木)	対人援助技術向上のための研修 より良い援助関係を作るために傾聴スキルを身につける ①傾聴の効果を高める ②コミュニケーションスキルを身につける	平野 亜紀: 社会福祉士 Healing forest認定トレーナー
6月21日(金)	対人援助技術向上のための研修 信頼関係を深める技術 ①自分の価値観を知る ②傾聴効果を高めるために ③自分をありのままに受け止める	平野 亜紀: 社会福祉士 Healing forest認定トレーナー
9月27日(金)	対人援助技術向上のための研修 気持ちに寄り添う技術 ①相手の気持ちに寄り添う ②沈黙を活用する	平野 亜紀: 社会福祉士 Healing forest認定トレーナー
10月11日(金)	対人援助技術向上のための研修 勇気づける業務 ①本来持っている力を取り戻すために	平野 亜紀: 社会福祉士 Healing forest認定トレーナー
11月11日(月)	対人援助技術向上のための研修 相手との援助関係をつくる ①より良いパートナーシップを組むために	平野 亜紀: 社会福祉士 Healing forest認定トレーナー
11月27日(水)	対人援助技術向上のための研修 信頼関係を深める技術 ①話してよかったと思ってもらうために	平野 亜紀: 社会福祉士 Healing forest認定トレーナー
2月20日(木)	ファシリテーション研修 「場づくり」と「意見を引き出す」技術	船戸 義和
2月27日(木)	ファシリテーション研修 「論点を整理する」技術	船戸 義和
3月3日(火)	ファシリテーション研修 「まとめる」合意形成の技術	船戸 義和

2-8. 研修実績

スタッフの個別支援スキルの向上や地域づくりのノウハウの吸収、組織運営の知識を身につけるための研修会に参加した。

	日付	研修名	研修概要	時間	参加者
1	5月15日	平成31年度ひきこもり相談支援者研修会	「ひきこもり」の基礎知識と講演	1:30	2
2	5月20日	平成31年度大船渡市助け合い協議会	グループワーク「地域に助け合い活動が浸透していくために出来ること」	1:30	2
3	6月5日	支援者のためのグループケア・サロン体験会	大切な人をなくされた等の悲嘆に関して支援を行うグループケア・サロン体験	1:30	2
4	7月4日	生活クラブ岩手活動報告会	「伴走型支援」と「相互多重支援」について発表	4:00	1
5	7月5日	感性工学セミナー	支援と感性工学について	2:00	1
6	7月5日	第56回社会福祉セミナー「身寄りのない人」と社会福祉	身寄りのない人を社会はどう支えるか福祉制度と実践の発展の方向性を探る単身社会における福祉制度・政策の在り方	4:00	3
7	7月17日	第4回気仙地域精神保健福祉担当者連絡会	シリーズ「生活困窮者の自殺対策」	1:30	2
8	8月9日	令和元年度第1回大船渡市中心の健康づくり推進連絡会	大船渡市自殺対策計画についてほか	1:00	3
9	9月18日	第5回気仙地域精神保健福祉担当者連絡会	シリーズ「働き盛り世代の自殺対策」	1:30	2
10	10月2日	第2回支援者のための金銭管理・家計相談セミナー	障がいのある人への家計相談支援のポイント	2:00	2
11	10月7日	令和元年第2回地域助け合い創出研究会	講演：地域で暮らす高齢者を住民が支える取り組みについて	2:30	2
12	10月11日	認知症や障害を抱えた住民への理解と支援	認知症や障害がある人への理解、支援の方法～地域で支え合うために～	6:00	1
13	10月16日	第6回気仙地域精神保健福祉担当者連絡会	～ハイリスク者への支援体制～アルコール依存症の方への対応	1:30	2
14	11月3日 ～ 11月4日	第6回生活困窮者自立支援全国研究交流者大会	困窮の折り重なりに生きる人々に支援は届いているか？生活困窮者自立支援の価値を問う	6:00	3
15	11月15日	気仙地域精神保健福祉担当者連絡会	自死と遺族支援について考える	3:30	2
16	11月20日	第7回気仙地域精神保健福祉担当者連絡会	自閉症スペクトラムの理解と対応	1:30	2
17	11月27日	とうほくNPOフォーラムin陸前高田2019	復興の先を見据えてNPOはなにをすべきか	4:00	2
18	12月11日	就労準備支援セミナー	誰もが孤立しない地域社会を目指して	4:00	2

19	12月13日	第17回 伴走型支援士2級認定講座	シンポジウム「震災復興と就労支援」	4:00	3
20	12月13日 ~ 12月15日	第17回 伴走型支援士2級認定講座	伴走型支援士2級認定講座受講	16:30	3
21	1月15日	第8回気仙地域精神保健福祉担 当者連絡会	教育行政機関における自殺対策	1:30	2
22	2月7日	広報を考えるセミナー	発災10年へ復興支援を支える広報を 考える地域会議	6:00	1
23	2月19日	第9回気仙地域精神保健福祉担 当者連絡会	グループワーク「こんな会議だったらいいな」	1:30	2
24	2月20日	大船渡市地域助け合い協議会	参加団体活動報告	2:00	1
				81:00	48

※研修実績のまとめ

講座数	受講時間	参加人数
24	81時間00分	48

3. その他の事業成果

3-1. 緊急一時支援の実績

(a) 食料支援実績

特定非営利活動法人フードバンク岩手の協力により食料支援物資を準備、低所得・孤立世帯や家計課題を抱える世帯に対して、地元の社会福祉法人、生活困窮者自立相談支援等と情報共有・協働しながら、支援プランに基づいた緊急一時支援を実施している。

主食（白米）	主食（麺類・アルファ化米）	副食（缶詰）	副食（レトルト類）	提供世帯数
64kg	154 個	61 個	144 個	44 世帯

4. 総括および次年度への展望

今年度は、(1) 見守りを含む継続支援世帯への訪問、(2) 在宅被災世帯の全戸再調査（健康調査含む）、(3) 前年度災害公営住宅全戸訪問及び(2)の調査に基づく再訪、(4) 交流機会創出活動の4点を中心に支援活動等を実施。

特に、(2) 在宅被災世帯の全戸再調査においては震災後9年を迎える中、経年により世帯状況にも目に見えて変化が生じ始めている印象が強い。引越し、死亡、入院、発病、施設入所、介護保険の利用、等の変化が主であり、高齢独居世帯や高齢世帯の訪問需要が増えている。これらの課題は継続訪問世帯や災害公営住宅においても顕著となり始めている。次年度においては災害公営住宅においても自治会や関連機関などと歩調を合わせる中で、高齢世帯、高齢独居世帯、独居世帯などを中心にアウトリーチを重ね、見え隠れする課題に留意しながら見守り体制を強化していきたい。

(4) 交流機会創出活動の中心として、需要に応じ各所において小さなサロン活動や外出イベントなどを実施。徐々に参加メンバーを増やすことで関係性などへの負荷を減らしメンバーが継続参加できるように設定。また、多人数が苦手な向きの方々には個別サロンを順次開催するようにした。次年度においてはこれらの延長上においてサロンとサロンを繋ぎながらその輪を広げ、また、共催などを含め外部にも働きかけながら、各サロンメンバー自身が他者に対して働きかけをすることができるよう環境を設定するなど相互性を重視した活動を実施していきたい。

震災後9年目となるなかで、見えてきた“困りごと”の内容はすでに被災地、非被災地に関わらず各地域や自治体が抱える課題となんら変わることがないという印象が強い。災害公営住宅においては慣れ親しんだ環境を離れ、おそらく初めての集合住宅での暮らしの中で唯一被災由来度の高い課題が継続されることになるであろう。しかし、それもいずれは一般的な集合住宅をめぐる課題と同化することになると思われる。

10年目となる来期は、今まで積み重ねてきた知見、知識、ネットワークをフル活用し活動するなかで、被災者支援はもとより総合的な支援に枠組みを広げられるようスタッフ一同のレベルアップを図り、当財団の理念である「もっとも小さくされたものへの支援」の大船渡市における具現化に向け、今後も精進して行きたい。

以上